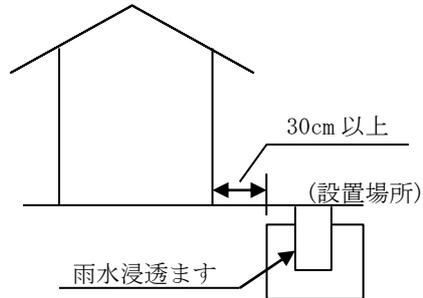


雨水浸透枳、雨水貯留槽の設計・施工資料

1. 構造物との離隔
2. 望ましい口径について
3. 施工方法及び手順
4. 写真撮影について

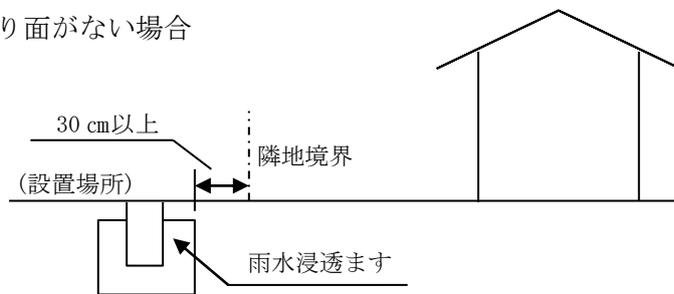
1. 構造物との離隔図

(1) 建物基礎との離隔

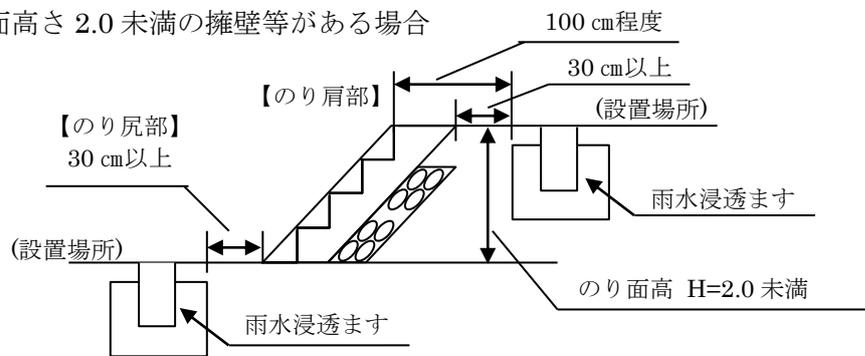


(2) 隣接境界及び擁壁等との離隔

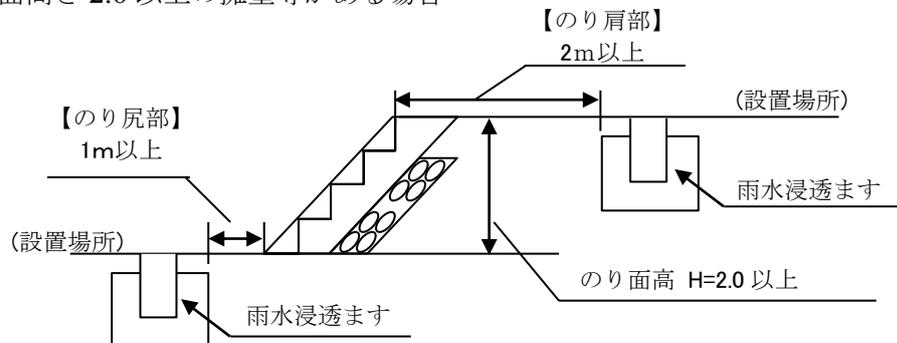
ア. のり面がない場合



イ. のり面高さ 2.0 未満の擁壁等がある場合



ウ. のり面高さ 2.0 以上の擁壁等がある場合



2.雨水浸透柵の望ましい口径について

- ・雨水浸透柵の望ましい口径を以下のとおりとする。

屋根面積に対応した口径を下表に示す。

	浸透柵の口径(mm)		
	φ 200	φ 300	φ 350
浸透柵1基当たりの 屋根面積	～約30㎡	～約50㎡	～約60㎡

但し、離隔等の設置条件を満たす必要があります。

望ましい口径以下であっても助成対象となります。

<参考>

雨水浸透柵の1時間当たり浸透量

($\text{m}^3/\text{hr} \cdot \text{個}$)

土質	地形	浸透柵口径(mm)		
		φ 200	φ 300	φ 350
細砂	砂丘地	1.6	2.5	3.1

3.施工方法及び手順

- ① 掘削は、浸透に必要な大きさとし、余掘りは行わない。
 - ア シャベル等で掘削する場合、地山斜面を剥ぐように掘り、浸透面が平滑にならないように仕上げる。
 - イ 浸透面は締め固めない。
 - ウ 機械掘削の場合も、側面、底面はスコップ等を用いて人力で整形する。
- ② 浸透性シートを浸透面（掘削面）全体に敷く。
- ③ 底部に単粒度砕石（4号20～30mm）または（5号13～20mm）を入れる。
- ④ 浸透ます等を据え付ける。
- ⑤ 周囲に単粒度砕石を入れる。
 - ア 単粒度砕石の転圧は、沈下や陥没防止のためある程度やむを得ないが、砕石部分の浸透能力に影響するため、転圧の回数や方法に十分配慮する。
- ⑥ 浸透シートで単粒度砕石の上面を覆う。
 - ア 浸透ますの目詰まりを防止するため、周囲の土が単粒度砕石上に落ちないように浸透シートを設置する。
- ⑦ 埋め戻しする。
 - ア 埋め戻し土の転圧は、タンパ等で十分締め固める。なお、単粒度砕石部のかみ合わせ等による初期沈下が起きる恐れがあるため、埋め戻し後1～2日は注意する必要がある。
 - イ 掘削及び埋め戻し時に、土砂、埋め戻し土などが浸透ますの単粒度砕石部に入らないように十分注意して施工する。
- ⑧ 清掃、片付けを行う。
 - ア 施行中、浸透施設内に土砂が流入しないように、仮蓋をしておくなど配慮する。
 - イ 浸透柵の近くで一般工事を行う場合はシートを敷くなどして、残土や廃液等が浸透ますに入り込まないよう注意する。
 - ウ 施行完了後、浸透ますの清掃を行う。
- ⑨ ノン砕石雨水浸透ます等の製品についてはメーカーが指定する施工方法に従う。

4.写真撮影について

(1) 雨水浸透ますの写真撮影箇所

- ① 着工前
- ② 掘削状況
- ③ 掘削完了（地表から掘削底部までの深さ検尺）
- ④ 透水性シート敷き
- ⑤ 単粒度砕石投入（浸透ます設置前）
- ⑥ 浸透柵設置
- ⑦ 単粒度砕石投入（浸透ます設置後）
- ⑧ 埋め戻し前（透水性シートで単粒度砕石の上面を、しっかりと覆ってあること）
- ⑨ 埋戻し前（中間）
- ⑩ 完成後
- ⑪ 完成後の柵内の状況
- ⑫ 材料検収

※黒板には住所地番を明記すること

(2) 雨水貯留槽の写真撮影箇所

- ア 着工前
- イ 完成後
- ウ 貯留槽内部（既存浄化槽の転用によるものに限る）